

45 主題役割

述語の意味を満たすために必要な要素を項 (argument) と呼ぶ。例えば、smile という動詞であれば、「誰が」という主語がなければ文の意味が完成しない。同様に、buy という動詞であれば、「誰が」という主語に加えて、「何を」という目的語がなければ文の意味が完成しない。また、put という動詞であれば、「誰が」という主語と「何を」という目的語に加えて、「どこに」という場所を示す語句がなければ文の意味が完成しない。文の意味を完成させる上で必須の要素である「項」に対して述語が与える特定の意味内容を主題役割 (thematic role) と呼ぶ。例えば、動作を遂行する人を動作主 (Agent), 状態変化や移動を被るものを対象 (Theme), 行為の影響を受けるものを被動者 (Patient), 心理的影響を受けるものを経験者 (Experiencer), 移動・変化の出発点を起点 (Source), 移動変化の到達点を着点 (Goal), 主題が位置するところを場所 (Location) と言う。以下に具体例を示す。(これら以外の主題役割も提案されており、また研究者によって主題役割の定義も一様ではないことに注意されたい。)

- (1) a. Mary put the book on the table.

Mary = Agent, the book = Theme, on the table = Location

- b. Mary gave the book to John.

Mary = Agent/Source, the book = Theme, to John = Goal

- c. Jack hit the police officer.

Jack = Agent, the police officer = Patient

- d. The boy feels sad.

The boy = Experiencer

意味役割を必要とする要素は名詞句（や節）であるが、名詞句であれば必ず意味役割を必要とするかというとそうではない。以下の例を考えてみよう。

(2) It seems/appears that John is sick.
(2) にある it は名詞句であるが、seemなどの述語に対してある特定の意味内容を担っているとは考えられない。(2) の it は虚辞の it と呼ばれ、特定の意味役割は与えられない。このような要素を非項 (nonargument) と呼ぶ。

ある意味役割を付与する述語とその意味役割を受け取る要素の間の関係は構造的に規定されている。例えば、以下の 2 つの文を考えてみよう。

- (3) a. Jack broke the window.

- b. Jack broke his leg in the accident.

主題役割の付与の方法は一般的に以下のように考えられている。

(4) a. Xは、その補部に直接的に主題役割を付与する

b. Xは、その主語に間接的に主題役割を付与する

Xの部分には**語彙範疇 (lexical category)** である動詞、名詞、形容詞、前置詞が来る。まず、(4a) にあるように、Xがその補部に直接的に主題役割を付与するというのは、補部の主題役割がXによってのみ決定されるということを意味する。それに対して、(4b) にあるように、Xがその主語に間接的に主題役割を付与するというのは、主語の主題役割はXによってのみ決定されるというのではなく、Xを中心とする句全体の性質によって決定されるということを意味する。例文 (3a) は、一般的にはJackが意図的に窓を割ったという意味で解釈される。つまり、Jackはbroke the windowという行為の動作主 (Agent)として解釈される。それに対して例文 (3b) は、一般的にはJackは事故で足を折ってしまったと解釈される。つまり、Jackはbroke his leg in the accidentという事象の被動者 (Patient)として解釈されるのが普通である。このように、例文 (3a, b) でJackに与えられる主題役割が異なるという事実は、主語の主題役割は動詞によってのみ決定されるという分析では捉えることができない。なぜなら動詞はどちらも同じbrokeだからである。したがって、例文 (3a, b)において、主語Jackの意味役割が異なるという事実を捉えるためには、主語の主題役割は、動詞単体ではなく、動詞とその補部を含めた全体 (VP全体) によって間接的に付与されると考えなければならない。それに対して、例文 (3a, b) のbrokeの補部位置にあるthe windowとhis legはどちらも、brokeという動作を受ける対象と考えられるので、主題 (Theme) という主題役割が与えられる。brokeの補部位置にある要素の主題役割はbrokeという動詞の性質によってのみ決定されるので、それらの要素は動詞brokeによって直接的に主題役割を付与されると言える。

(永盛 貴一)